

徳島大学歯学部同窓会主催 令和元年度卒後研修セミナーのご案内

令和2年

3/20 10:30~12:00
(祝)金

- 会場 徳島大学歯学部 4階 大講義室
- 会費 無料 コ・デンタルスタッフもご参加下さい。
- 日歯生涯研修事業の3単位に認定されております。必ずICカードをご持参下さい。
- 本講演のビデオ撮影・録音は禁止します。ただし、レジュメをご用意し、配布いたします。

訪問と外来で対応する高齢者のオーラルフレイル

高齢者歯科を専門として、外来や在宅・病院・施設への訪問診療で口腔機能管理を担当しているが、高齢者の医療・介護・福祉における多職種協働の一環として口腔機能の問題に対応する機会が増えているというのが昨今の実感である。

歯・義歯、舌・口唇など、様々な口腔機能の統合的結果である咀嚼・嚥下機能は、様々な点から高齢者で低下しやすい。高齢者にとって食事は日常の営みであり楽しみであり、また、高齢者は老年症候群に陥りやすいことから、口腔機能の問題は栄養や生きがいなど生命や生活の問題にも直結しやすい。

そのため、今後の地域包括ケアにおける歯科の役割は、外来・訪問を問わず、高齢者の口腔機能を適切に管理し、多職種協働による高齢者の総合的な医療・介護・福祉のケアの枠組みで生命活動や生活を支援することである。オーラルフレイルとは、ささいな口腔機能の低下から摂食嚥下障害へとつながる一連の口腔機能低下を意味しており、その対応は、訪問だけでなく外来、そして地域で行う面の対応が重要なのである。

高齢者の摂食嚥下障害の最大の予防法は要介護にならないことであり、そのために外来で口腔機能を管理するための口腔機能低下症という病名が平成30年度に保険診療に導入されたのである。脳卒中など一部の疾患を除けば、高齢者は突然要介護になり、口腔機能が低下し、突然訪問診療の対象になるわけではない。適切な医療と食に関する支援により、楽しく食べるからこそが、口腔機能の維持向上へとつながっていく。そのためには、外来と訪問がつながっていることを強く意識し、外来から訪問へと続く一連のオーラルフレイルへの対応によって、高齢者の口腔機能を地域全体で多職種協働で支えることが重要となる。

本講演では、そのために必要な口腔機能や摂食嚥下に関する共通言語を整理した上で、口腔機能という歯科の専門性について、改めて皆さんと一緒に考えてみたい。

講師プロフィール



ふる や じゅんいち
古屋 純一

東京医科歯科大学大学院 地域・福祉
口腔機能管理学分野 教授
日本老年歯科医学会 認定医・専門
医・指導医・評議員・摂食機能療
法専門歯科医師
日本補綴歯科学会 専門医・評議員
日本摂食嚥下リハビリテーション学会
認定士・評議員
日本咀嚼学会 理事
日本静脈経腸栄養学会 学術評議員

〈略 歴〉

1996年 東京医科歯科大学歯学部 卒業、高齢者歯科学講座 入局
2000年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科高齢者歯科学専攻 修了(歯学博士)
2005年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座 助手
2008年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座 講師
2010年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学講座有床義歯補綴学分野 准教授
2013-2014年 Harvard School of Dental Medicine 客員准教授
Harvard Dental Center Part-time Faculty
2014年 岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座 准教授
2015年5月より現職

連絡先

〒770-8504 徳島市蔵本町3-18-15
徳島大学歯学部同窓会(蔵歯会)
学術担当 安陪 晋(総合歯科診療部)

TEL 088-633-9181
FAX 088-633-9182
E-mail susumu.abe@tokushima-u.ac.jp

会場案内図

